



# 金屋町通信

発行元：

金屋町まちづくり協議会

発行責任者：般若 陽子

編集責任者：般若慎一郎

左上の写真は、鳳鳴橋の欄干にはめ込まれている銅製レリーフで、たたら踏みの作業を描いています。普段は何気なく通り過ぎていますが、あらためてよく見ると、なかなかの作品です。

## 金屋町祭市 in さまのこ 2010

7月17日、公民館において今年の「金屋町祭市 in さまのこ」の説明会があり、事務局の高岡市商業観光課から細かな説明がありました。テーマは「花鳥風月・技」で、イベント内容は昨年までと大きく変わりません。実施日程は次のとおりです。

9月11日（土）祭市塾～金屋町まちめぐりツアー、9月17日（金）記念シンポジウム、9月18～19日（土日）ゾーンミュージアム、9月20日（月祝）さまのこ寄席。

## 金屋町おもてなしマップづくり ～まちづくり協議会～

金屋町まちづくり協議会では、高岡市が公募していた平成22年度「元気高岡」市民まちづくり事業に、「金屋町おもてなしマップづくり事業」で応募して認可され、25万円を助成してもらえることになりました。約10年前に作った「金屋町七カ町散策マップ」をベースに内容を整理し、特に鋳物関係事業所やみやげものなどの店舗の情報を重点的に追加し、ものづくりの金屋町を分かりやすくアピールしようというものです。あわせて国際化に対応し複数の外国語で案内文を載せることや、マップづくりを通じて金屋町の事業者間の共同連帯意識を高め、高岡市と金屋町の活性化に寄与することを目的とし、年内の完成を目指しています。

## 金屋町が2度目の団体優勝 西条校下住民ゴルフ大会

7月18日に、第13回西条校下住民ゴルフ大会

が開催されましたが、金屋町チームが団体優勝しました。

金屋町から10名が出場し、参加総数81名の中で個人では2位：鍋谷五郎、7位：片山雅之、10位：般若慎一郎、21位：藤田益一など、上位に食い込んだ結果です。

ちなみに過去の成績は、2009年第12回2位、2007年第10回優勝、2006年第9回3位など、ここ5年間は上位入賞の常連になっており、今回は2度目の優勝です。

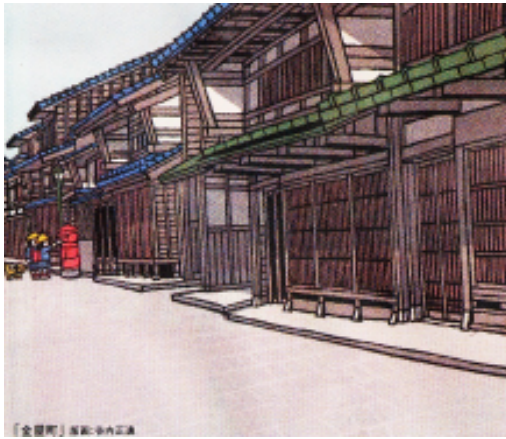


金屋町では金屋町鳳鳴グリーン会が年2回のコンペを開催しており、この秋には

第30回大会を迎えます。最近が高齢の先輩方はパークゴルフに転向していくし、若い人には参加の輪が広がらないという悩みがありますが、ゴルフを通じてのコミュニティ作りを地道に続けていきたいと考えています。

## 金屋町まちづくり憲章

今から20年以上前に金屋町のまちづくり憲章が作られ発表されていましたが、ほとんど忘れられているのではないのでしょうか。そこで以下に改めてその全文を掲載してみました。



私たちの  
住む金屋  
町は、今か  
ら約 380  
年前、加賀  
藩二代目  
藩主、前田  
利長公が  
高岡の繁

栄を願い、7人の鋳物師を招いて鋳物工場を開いたことに始まり、本市の地場産業である銅鉄器やアルミ産業の基礎を築いた『鋳物発祥の地』であります。また、金屋町通りには、今も昔ながらの千本格子造りの町屋が続き、藩政時代を偲ばせる美しいまちなみ景観が残っております。

私たちはこのような由緒ある町の歴史と、先人が残した素晴らしいまちなみに大変な誇りを感じるとともに、この優れた遺産を守り、育てて、次の世代に伝えていく責任があります。

このことから、金屋町に住む私たちの期待と願いを込めて、次のような住民憲章を定めるものであります。私たち住民一人ひとり、力を合わせてこの住民憲章を守り、魅力のある金屋町のまちづくりに積極的に努めたいと思います。

・・・・・・・・・・・・・・・・

- ・私たちは、伝統ある金屋町の文化に深い愛情をもち、この保存、継承に努めましょう。
- ・私たちは、通りに面する建物の新築、改築、増築にあたっては、金屋町のまちなみの象徴である千本格子の保存、再生に努めるとともに、周囲の景観との調和に十分配慮して、優れたまちなみ景観の保存、創出に努めましょう。
- ・私たちは、空調機、門灯、看板などの設置にあたっては、まちなみ景観との調和に努めましょう。
- ・私たちは、まちの風致保全と事故防止のため、屋外広告物のきまりを守るとともに、道路や溝の清掃に努めましょう。

- ・私たちは、屋根の雪降ろしの徹底を図り、家屋の倒壊を未然に防止しましょう。
- ・私たちは、各家庭での火の始末の徹底をはかり、貴重な財産を火災から守りましょう。

昭和62年12月7日

高岡市金屋町通りまちなみ委員会

**金屋町開町400年記念  
シリーズ  
金屋町と高岡鋳物の歴史**

来年2011年は前田利長公が金屋町を

開いてから400年に当たります。この機会に金屋町と高岡鋳物の歴史をふり返ってみましょう。

① 金屋町のはじまり



前田利長公像

加賀藩2代藩主前田利長は引退後、1609年（慶長14年）に高岡城を建設し城下町として高岡の町作りを始めた。その2年後1611年に西部金屋から7人

の鋳物師を呼び寄せ、鋳物工場を作るための土地を与え諸役免除などの特権を与えて鋳物産業を保護し発展させた。金屋町が鋳物産業の適地として選定された理由は次のように考えられている。

1. 高岡城を中心に武士や町人が住む地域と千保川を挟んで隔てられ、鋳物工場から火災が発生しても延焼の恐れが無い。(当時の千保川の川幅は100～600mもあった)
2. 千保川の舟運を利用して、材料や製品などの物資輸送がしやすい。

前田利長が鋳物産業を興した理由の一つは戦時の兵器作りにあったと想像されるが、実際に製造したのは鉄を材料とする鍋釜などの日用品や鋤、鍬などの農機具が中心で、後に梵鐘や仏具、美術品などの銅製品を作るようになった。